

## 委員会での意見交換テーマ

### テーマⅠ 今後のインバウンド事業について

昨今のコロナ禍により、国内だけでなく国外でも様々な変化が生じていると考えられます。アフターコロナを見据えて、国外での日常生活、観光に対する意識等がどう変化しているかを把握し、ニーズに沿ったインバウンド事業を展開することが今後の重要なポイントになると想定されます。そこで今回は、国外でどういった変化が生まれ、それにどう対応していくか、今後のインバウンド事業について意見交換を行っていただきます。

#### (1) 現状

- ・国では、訪日外国人観光客の目標値を2020年時点で4,000万人、2030年時点で6,000万人とするなど、観光先進国をめざしていました。しかし、コロナの拡大により、日本政府観光局(JNTO)が発表した訪日外国人観光客数(推定値)では、2020年において、前年比87.1%減の411万5900人(2019年は3188万2049人)となり、当初政府が目標としていた約10分の1の着地となった。
- ・三木市においても、インバウンド事業のKPIとして外国人宿泊人数の目標を設定していたが、2020年度については、目標から大きく乖離する結果となった。
- ・三木市の2020年度の取組としては、ひょうご観光本部と連携した体験コンテンツの造成事業や商品化、在日外国人によるモニターツアー等を実施した。

#### (2) 問題提起

- ・国外においてもコロナによって日常生活、観光に対する意識等は変化していると考えられる。アフターコロナを見据えたインバウンド事業について、今後、どのような取組を進めていけばよいでしょうか。  
(例えば、ゴールデンルート等の名所を周遊する旅のスタイルから地域の暮らしや、その場所でしか体験できないことを求める動きが出てきている。)

## テーマⅡ 今後のイベントのあり方について

現状は、コロナの影響により、市のイベントのほとんどが延期や中止を余儀なくされています。今後は、コロナによって生じた日常生活の変化やイベントに対しての意識の変化をとらえ、収束までにできること、収束後にできることを検討し、それらを反映することが今後のイベントの活性化や成功につながると考えられます。そこで今回は、ウィズコロナ、アフターコロナにおけるイベントのあり方について意見交換を行っていただきます。

### (1) 現状

- ・市の基幹産業である金物を中心とした祭典「三木金物まつり」や、まちの恒例行事である「みっきい夏祭り」や「秋祭り」などが中止となり、地域資源を生かしたまちの活性化に繋がる機会が減少している。
- ・一方、全国高等学校・中学校ゴルフ選手権春季大会をはじめ、「ゴルフのまち」の活性化に向けた大会やイベントは、無観客で実施された。
- ・ふるさと納税過去最高の寄附額約5億円に達成したことは、巣籠需要が一つの要因となっていると想定される。
- ・縁結び事業では、コロナ禍でイベントが相次ぐ中止の中、仲人的存在であるサポーターの皆さんの協力もあり、個々のお見合いが功を奏し、前年以上の12組の成婚につながった。

### (2) 問題提起

- ・コロナによってどのような変化が起きているのでしょうか。そして、ウィズコロナ・アフターコロナにおける今後のイベントのあり方や手段(告知やアクセス含め)はどうあるべきでしょうか。